

Futaba Report

第105期 中間株主通信

2018年4月1日 ▶▶ 2018年9月30日





新しい価値を育て、モノづくりで社会に貢献する企業へ 私たちはどこまでも挑戦する人の集団でありたい

株主の皆様におかれましては、日頃よりフタバ産業株式会社ならびにフタバグループ各社をご支援いただきまして、誠にありがとうございます。第105期中間（第2四半期連結累計期間：2018年4月1日から2018年9月30日まで）の株主通信をここにお届けいたします。

代表取締役社長

吉貴 寛良



第2四半期の概況について

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、北米では景気の回復基調が続いており、消費が増加しているなか、自動車販売台数はほぼ横ばいにとどまっています。

欧州においては、ユーロ圏の景気は緩やかに回復している一方で、3月にせまったイギリスのEU離脱により先行きはますます不透明となります。

アジア地域においては、中国では米中貿易摩擦による影響を懸念し、緩やかな減速基調が続いています。インドでは、長期にわたる人口増加に伴い、経済成長が長期化し好景気が続くと思われております。インドネシアでは、景気は緩やかに回復していますが、当面は内需の上振れと輸出品の価格低迷の相殺により、2018年後半より横ばい傾向が予想されます。

国内においては、景気は回復傾向にあり、緩やかに拡大していくと見込まれています。

当社グループの主要取引先であります自動車業界におい

ては、CASEという4文字に象徴される、Connected（接続性）、Autonomous（自動運転）、Shared（共有）、Electric（電動化）という、新しい動きが急速に拡大しています。

こうした状況のなか、当社も自動車産業の変革を見越した事業展開に向け、研究開発の充実などの準備を推し進めていきます。

当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高は2,196億円（前年同四半期比4.4%増）となり、営業利益は16億円（前年同四半期比62.4%減）、経常利益は15億円（前年同四半期比59.1%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は5億円（前年同四半期比87.8%減）となりました。

剰余金の配当につきましては、今後の業績、財務状況等を総合的に勘案し、1株につき、10円の期末配当を予定させていただきます。





新5ヵ年計画の進捗について

2016年5月に公表した新5ヵ年計画は、現在3年目を迎えております。新5ヵ年計画の初年度は、しくみ、会議体、決裁を見直すことで、経営判断の迅速化と責任、権限を明確にして、経営の意思決定プロセス改革を実施いたしました。

翌年の2017年度は、「計画の確実な実施」を目指し、疑似事業部制による利益計画の「見える化」を進めるために、新たな組織として、ボデー系企画統括部と排気・機能系企画統括部を設置し、利益目標と品質目標を設定し、その目標が達成できる仕事の仕組みを見直すことにより、主力車種で目標利益を達成し成果に結びつけることができました。

一方、新技術・新事業では、引き続きホットスタンプ加工ラインの導入拡大や、冷間超ハイテンプレス加工技術の確立を通じボデー系プレス部品における軽量化および高強度化を達成し、付加価値の高い環境対応製品のグローバル供給体制構築を進めました。さらにはハウス栽培用CO₂貯留・供給装置について、これまでの当社の農業装置に加え、お客様のニーズに細かく対応した、農業装置600坪用の販売を開始しました。

今年度は、成長の著しいインドで第2の生産拠点を立ち上げ、排気管とエキゾーストマニホールドなどの生産がスタートしました。

この様に各年度ごとにやるべきことを確実に実施することで、新5ヵ年計画の着実な達成を目指します。

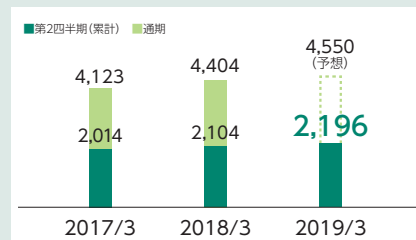
今後の課題

自動車業界が100年に一度の大変革時代を迎える中で、当社としても、新技術や新事業への取組みを更に強化していかなければならないと考えております。排気系部品では、更なる軽量化を追求しHV、PHEVに最適性能となる部品の開発に努めてまいります。ボデー部品においては、ホットスタンプ部品や、冷間超ハイテンなど付加価値の高い製品の更なる開発を進めております。電動化関連においては、衝突時の電池の安全を担保できる骨格部品、また電池やインバータ関連部品の温度を最適化する熱マネジメント新商品等、当社のコア技術を進化させた開発を強化して進めております。皆様に信頼され、なくてはならない会社であるよう、今後とも精進してまいります。

連結財務ハイライト

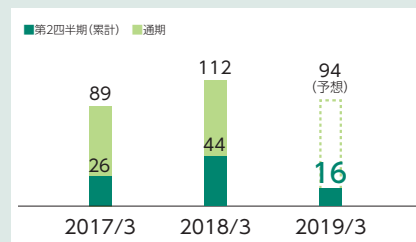
売上高

(億円)



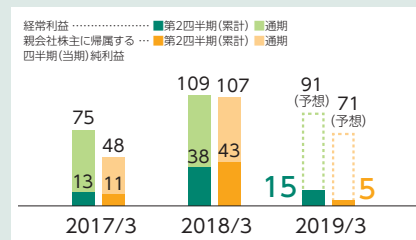
営業利益

(億円)



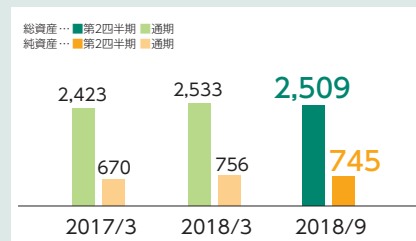
経常利益

親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (億円)



総資産・純資産

(億円)

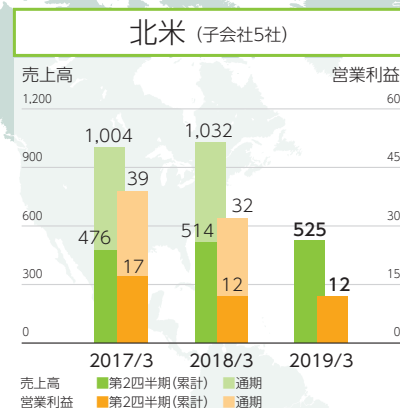
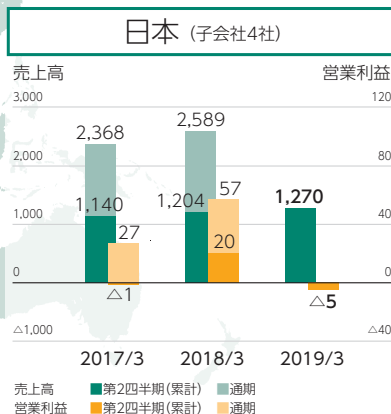
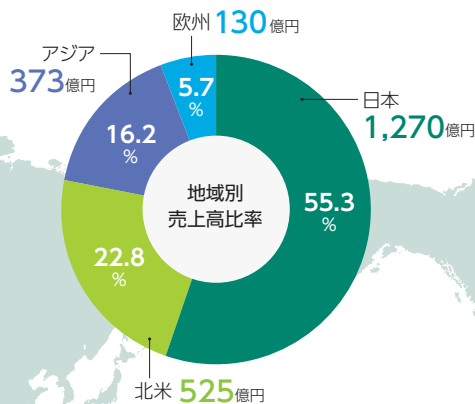
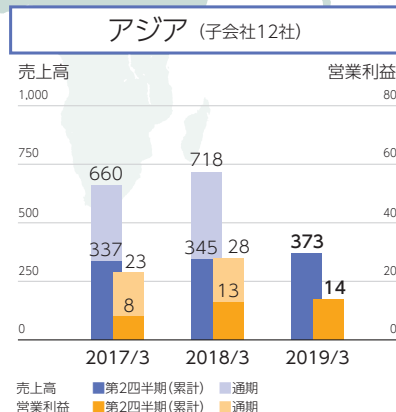
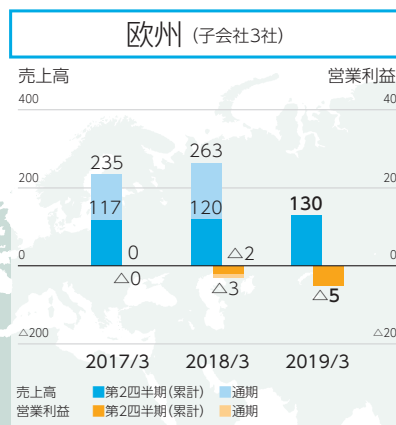




地域別業績の状況 Situation of Regional Performance

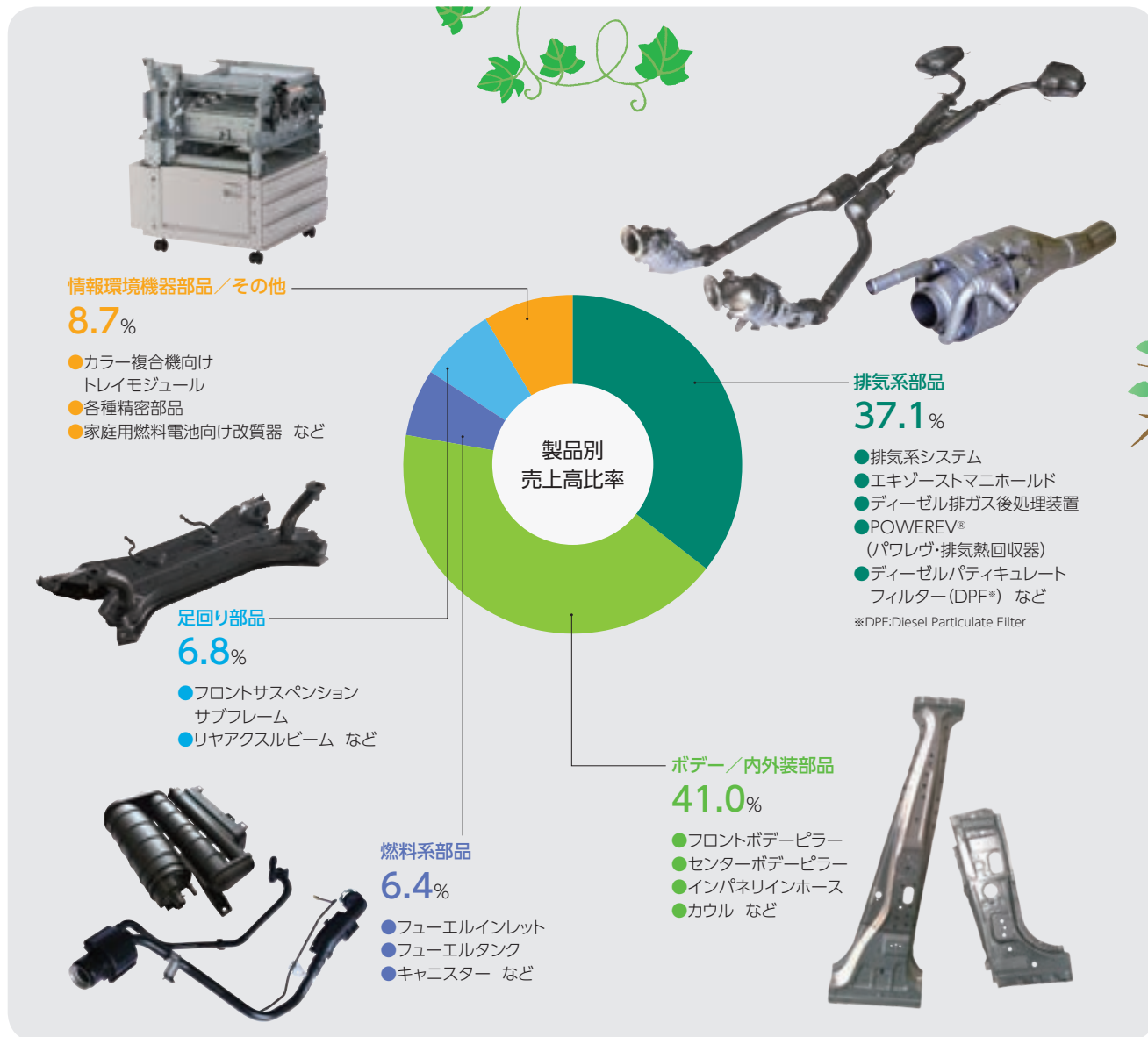
当社グループの地域別業績は日本においては売上高が1,270億円（前年同四半期比5.4%増）、セグメント利益は5億円の損失（前年同四半期は20億円のセグメント利益）となりました。その他の地域における売上高は、北米が525億円（前年同四半期比2.2%増）、欧州が130億円（前年同四半期比8.6%増）、アジアが373億円（前年同四半期比8.0%増）となり、セグメント利益は、北米が12億円の利益（前年同四半期比1.1%減）、欧州が5億円の損失（前年同四半期は2億円のセグメント損失）、アジアが14億円（前年同四半期比8.5%増）となりました。

地域別売上高・営業利益





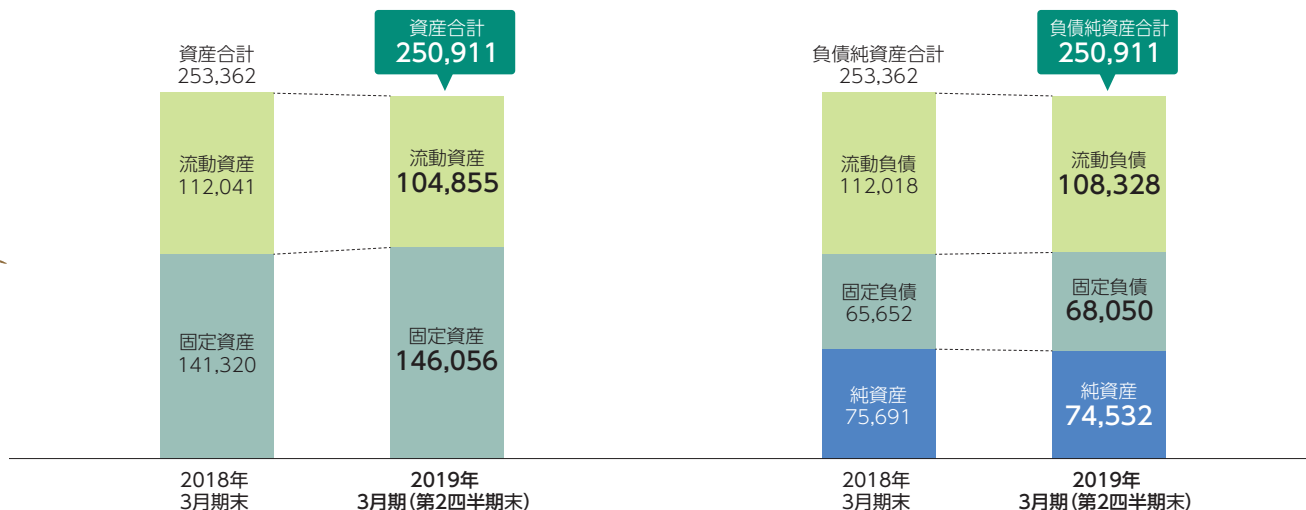
製品別売上高比率 (2019年3月期 (第2四半期累計)) Product Sales Ratio





連結財務諸表 Consolidated Financial Statement

四半期連結貸借対照表の概要 (百万円)



四半期連結損益計算書 (百万円)

科 目	前第2四半期 (2017年9月期)	当第2四半期 (2018年9月期)
売上高	210,493	219,655
売上原価	195,973	206,935
売上総利益	14,520	12,720
販売費及び一般管理費	10,087	11,054
営業利益	4,432	1,666
営業外収益	769	752
営業外費用	1,302	822
経常利益	3,899	1,596
特別利益	1,149	—
税金等調整前四半期純利益	5,048	1,596
法人税等	394	759
四半期純利益	4,654	836
非支配株主に帰属する四半期純利益	340	309
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,314	526

四半期連結キャッシュ・フロー計算書 (百万円)

科 目	前第2四半期 (2017年9月期)	当第2四半期 (2018年9月期)
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,219	5,166
投資活動によるキャッシュ・フロー	△11,462	△15,666
財務活動によるキャッシュ・フロー	△7,561	6,554
現金及び現金同等物に係る換算差額	36	△129
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△7,768	△4,074
現金及び現金同等物の期首残高	20,581	11,960
現金及び現金同等物の四半期末残高	12,813	7,886



今後の取り組み Future Prospects

ボデー部品

2018年7月、カナダ工場にホットスタンプの2ライン目を設置いたしました。また、2018年8月、幸田工場にホットスタンプの2ライン目を設置いたしました。今後は、更に強いボデー部品の開発及びマルチマテリアルの開発に向けて、取り組んでいく予定です。

●ボデー部品のシナリオ

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年以降
ボデー系 開発アイテム	冷間超ハイテン1180MPa材開発 ⇒ 量産中					
		冷間超ハイテン1470MPa材開発				
	ホットスタンプ1470MPa級		量産中 ⇒ ホットスタンプ1780MPa級開発			
		ホットスタンプ部分焼き戻し開発				
				高強度アルミ開発		
				CFRP開発		

2018年量産車以降のハイテンシナリオ

→ 将来のシナリオ

赤：ホットスタンプ1470MPa材
青：冷間超ハイテン1180MPa材

鉄へのこだわり

難成形品のホットスタンプ1780MPa以上化
冷間超ハイテン1470MPa材の多様化



■ 超ハイテン1180MPa
■ ホットスタンプ
■ アルミ

マルチマテリアル
対応

プレス加工開発
接合開発
高強度化

生産現場でのタブレット端末の展開について

2016年2月からモデルラインでトライアルを進め、2017年4月から、三河6工場の生産現場にタブレット端末を導入し、生産管理のIT化を進めてまいりました。手書き日報等のデータ処理業務の効率向上、及び現場のタイムリーな生産状況が確認できるようになり、問題解決の早期化につながりました。今後は、タブレット端末を有効利用し、業務の向上を進めてまいります。



▲タブレットのandonシステムを使用



▲タブレットにて材料を管理



1

製品情報

ミキサーパイプとSCRの受注

当社幸田工場にて生産しているミキサーパイプ^{※1}とSCR^{※2}は、2018年3月から販売されている、いすゞ様（新規顧客）のエルフ（小型トラック）に搭載されております。こちらのミキサーパイプの内部には、当社独自の新規開発品である「拡散板」が組込まれています。従来品と比べ部品点数削減による低コスト化や低圧損化を実現したことで、いすゞ様から受注を頂きました。

※1 ※2 ディーゼルエンジンのNOxを浄化するシステム

※1 ミキサーパイプ：噴霧した尿素を攪拌するもの

※2 SCR：尿素水を還元剤としてNOxを浄化する触媒



2

製品情報

幸田工場 ホットスタンプラインの生産開始

2018年5月から、当社幸田工場にて、車の軽量化に向けた最新工法として、ホットスタンプ加工ラインの生産を開始いたしました。2018年6月から販売開始している、トヨタ自動車様のクラウンに搭載されております。



3

工場紹介

インドグジャラート工場の稼働開始

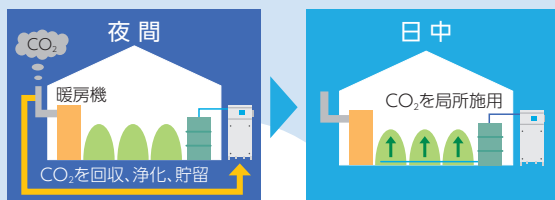
2018年8月、インドグジャラート工場にて、スズキ様向けの排気管の生産のため、稼働を開始いたしました。インドと南アフリカで販売されている、スズキ様のスイフトに搭載されております。



4 製品情報

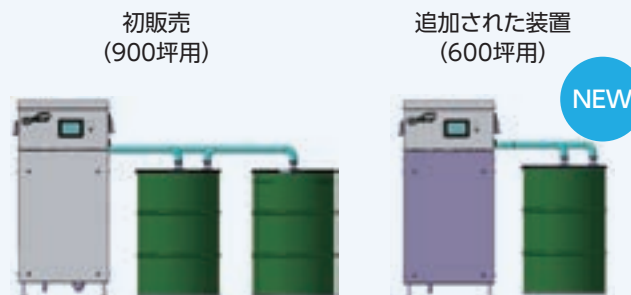
農業装置600坪用の販売開始

当社は、ハウス栽培用CO₂貯留・供給装置（900坪用）を、2017年11月から販売してきました。2018年7月から、お客様のニーズに細かく対応するため、600坪用の新しい小型装置を追加し、販売を開始いたしました。生産は、当社幸田工場にて行っております。



CO₂貯留・供給装置とは…

農業のハウス栽培では冬季や夜間に、暖房のため燃焼式暖房機を稼働させています。また一方で、日中には光合成を促進するために、燃料を燃焼させCO₂を発生させています。当社の製品は、夜間に燃焼式暖房機の排気ガスを回収・浄化して、CO₂のみを貯留し、日中に光合成促進のために再利用します。CO₂を発生させる新たな燃料を必要としないエコで環境に優しい製品です。



【重量】

- ・制御ユニット 130kg
- ・貯留タンクユニット 140kg×2ユニット

【メーカー希望小売価格】

185万円（税別）

【重量】

- ・制御ユニット 115kg
- ・貯留タンクユニット 140kg

【メーカー希望小売価格】

99万円（税別）

5 業績

格付審査の結果

当社は、(株)日本格付研究所による格付審査において、従来のBBBから、BBB+への格付アップが認められました。これまでの新5ヵ年計画の進捗や会社の取り組み成果が評価されたものです。

長期発行体格付

BBB

BBB+



会社概要 (2018年9月30日現在) Company Profile



会社概要

設立	1935年3月25日
創立	1945年11月1日
資本金	168億2,016万円
従業員数	10,300名(連結)
事業内容	自動車等車両部品、情報環境機器部品、 治具溶接機の製造販売、及びハウス栽培用 CO ₂ 貯留・供給装置の製造

取締役及び監査役

代表取締役社長	吉貴 寛良
取締役専務執行役員	岩月 幹雄
取締役専務執行役員	吉田 隆行
取締役専務執行役員	高橋 友寛
取締役専務執行役員	大橋 二三夫
取締役常務執行役員	浅川 慶太
社外取締役	堀江 正樹
社外取締役	市川 昌好
常勤監査役	中島 明
社外監査役	磯部 利行
社外監査役	吉村 善裕
社外監査役	鈴木 人史

事業所

本社・岡崎工場	愛知県岡崎市橋目町字御茶屋1番地
緑工場	愛知県豊田市緑ヶ丘6丁目1番地
知立工場	愛知県知立市逢妻町道瀬山110番地
幸田工場	愛知県額田郡幸田町大字長嶺字柳沢1番1
ハツ美工場	愛知県岡崎市在家町字向前田38番地
高橋工場	愛知県岡崎市高橋町字一三24番地
田原工場	愛知県田原市緑が浜1号5番

連結子会社の状況

会社名	所在地
(株)フタバ九州	福岡県
(株)フタバ平泉	岩手県
(株)アピックス	愛知県
(株)フタバ総合サービス	愛知県
フタバノースアメリカE&M(株)	米国
FICアメリカ(株)	米国
フタバインディアナアメリカ(株)	米国
フタバインダストリアルテキサス(株)	米国
FIOオートモーティブカナダ(株)	カナダ
フタバマニュファクチュアリングUK(株)	英国
フタバインダストリアルUK(株)	英国
フタバチェコ(有)	チェコ
双叶(常州)管理(有)	中国
雙葉科技(株)	香港
双叶金属制品(深圳)(有)	中国
天津双協機械工業(有)	中国
天津双叶協展機械(有)	中国
広州双叶自動車部品(有)	中国
東莞双叶金属制品(有)	中国
長沙双叶自動車部品(有)	中国
FMIオートモーティブコンポーネンツ(株)	インド
フタバインダストリアルグジャラート(株)	インド
(株)フタバインダストリアルインドネシア	インドネシア

関連会社

株式会社クレファクト(岡山県)^{※1}
協祥機械工業股份有限公司(台湾)
PT. Greenland Metal Stamping Indonesia(インドネシア)

※1 旧社名：三恵工業株式会社
(注) PT. Komponen Futaba Nusapersada(インドネシア)は、持株比率を下げたため、関連会社でなくなりました。



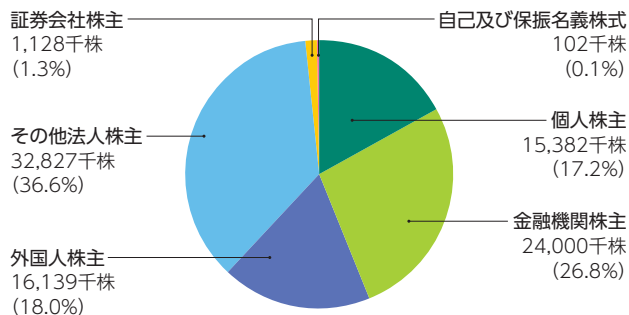


株式状況 (2018年9月30日現在) Status of the Stock

株式状況

発行可能株式総数	200,000,000株
発行済株式の総数	89,580,827株 (自己株式数102,720株を含む)
株主数	7,115名

所有者別持株比率



大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
トヨタ自動車株式会社	28,116	31.42
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	3,992	4.46
株式会社三井住友銀行	3,063	3.42
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 みずほ銀行口 再信託受託者 資産管理サービス 信託銀行株式会社	2,919	3.26
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	2,626	2.93
フタバ協力会持株会	2,598	2.90
ゴールドマンサックスインターナショナル	2,002	2.23
エムエルアイ フォークライアントジェネラル オムニノンコラテラルノントリーティーピービー	2,000	2.23
株式会社三菱UFJ銀行	1,290	1.44
三井住友信託銀行株式会社	1,162	1.29

※持株比率は、自己株式を控除して計算しております。



株主メモ Shareholder Information

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	
定時株主総会・期末配当	毎年3月31日
中間配当	毎年9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	電話 0120-782-031 (フリーダイヤル) 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。
単元株式数	100株
公告の方法	電子公告の方法により行います。 ただし、電子公告によることができないやむを得ない事由が生じた場合は、 日本経済新聞及び中部経済新聞に掲載します。
上場証券取引所	東京及び名古屋証券取引所 市場第一部

株主様のご住所・お名前に使用する文字に関してのご案内

株券電子化実施に伴い、株主様のご住所・お名前の文字に、株式会社証券保管振替機構（ほふり）が振替制度で指定していない漢字等が含まれている場合は、その全部または一部をほふりが指定した文字またはカタカナに変換して、株主名簿にご登録いたしております。

このため、株主様にご送付する通知物の宛先が、ほふりが指定した文字に置換えられる場合がありますのでご了承ください。

なお、株主様のご住所・お名前として登録されている文字については、お取引の証券会社等（特別口座の場合は特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社）にお問い合わせください。



フタバ産業株式会社

本社 〒444-8558 愛知県岡崎市橋目町字御茶屋1番地
TEL 0564-31-2211
URL <http://www.futabasangyo.com/>



環境に配慮した
「植物油インキ」を
使用しています。



見やすいユニバーサル
デザインフォントを
採用しています。